

プラタナス

那須赤十字病院 広報誌

No. 11

平成27年10月発行

Japanese Red Cross Nasu Hospital

 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

那須赤十字病院



茨城県常総市
きぬ総合運動公園にて

診療科紹介

整形外科について

登録医紹介

磯医院

看護師紹介

小児救急看護

災害に備えて

マイタウン・マイホスピタル
ミニニュース

ボランティア紹介

新任医師紹介



地域の皆様の健康を サポートします!



後列左から 福田医師、大木部長、梅澤医師、瀬戸医師、菊池医師
前列左から 吉田部長、西田医師

整形外科について

那須赤十字病院の整形外科の常勤医は7名です。「日赤は担当医がすぐにいなくなってしまう」とお叱りを受けることがあります。全員が慶應義塾大学からの派遣なので、転勤があっても治療方針が大きく変わることはありません。

整形外科の治療部位は頭と顔より下の胸腹部・骨盤の内蔵以外の全てです。もちろん、内科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、心臓血管外科、呼吸器外科などの治療対象となる病態ではその科が治療に当たります。整形外科は外傷だけではなく病気も扱います。上半身では首(頸)・肩・上腕・肘・前腕・手首・手と手の指、下半身では腰・臀部・骨盤・股関節・太もも・膝・脛・ふくらはぎ・足首・踵・足・足の趾の痛み・しびれ・腫脹・動かしにくさ・知覚の鈍麻や過敏が治療対象で、その他には上下肢の変形や背骨の曲がり・ズレなどもあり、多種多彩な疾患の治療を行っています。

内科や外科が、呼吸器・循環器・消化器・脳神経などに分かれているのと同じように整形外科もいくつかの専門領域に分か

第一整形外科部長 吉田 祐文

れています。肩・肘・手を対象とする上肢班、股関節・膝関節・足を対象とする下肢関節班、腫瘍班、頸椎・胸椎・腰椎・仙椎・尾骨を対象とする脊椎班です。当院は各領域の患者さんが多いため、常に上肢班・下肢関節班・脊椎班のインストラクター(指導的立場の医師)が揃うように大学と折衝を重ねています。腫瘍班の医師は本学と言えども少数であるため、悪性の場合には県立がんセンターや大学病院をご紹介しますようにしています。

三次救命救急センターのある病院で予定手術以外にも緊急手術も数多く扱っていますが、手術だけが重要な治療と考えているわけではなく、クスリの治療も神経ブロックも時間の許す限り行っています。長期の入院ができない、予約していても外来の待ち時間が長い、安定期に入るとかかりつけ医を紹介される、など様々な苦言も呈されますがしっかりとした診療を行えるように心掛けています。

磯医院

診療所の先生方はみなさんの健康を支えてくれる心強いパートナー。こちらのコーナーでは日々当院と連携いただいている診療所の先生を紹介していきます。今回は「磯医院」をご紹介します。



磯 政裕院長

磯医院
対象疾患 内科、外科、小児科、消化器科
得意分野 内科、消化器科

先生にインタビュー

「当院との医療連携について期待されていることはどのようなことですか？」

ネットワークによって、各種検査結果や入院データ、診療内容を参照できるシステムは大変重要だと考えております。当院自前の設備および「ちまるネット」システムを最大限に駆使して患者さんの病状を正確に把握し、通院および往診で対応出来るか入院治療が必要かを的確に判断して、受診者や家族の同意を得た最良の治療が提供できるように、日々考え日々努めています。日常診療において那須赤十字病院とは特に連携が強く、緊急入院や専門的な診察および治療が必要な際にはいつでも診てもらえる体制が整っているため、大変感謝しています。

「毎日忙しいと思いますが、休日はどう過ごされていますか？」

子供の手が離れたため、時間のできた休日に家内と寺社巡りをするのが楽しみです。連休には遠出もしており、昨年のお盆休みに「出雲大社」に出かけた際に御朱印集めを始め、もう既に御朱印帳は4冊目に入りました。

また、那須都市医師会野球部(那須野アチャーズ)に所属しており、毎週金曜日の夜に練習をしています。(キャプテンは那須赤十字病院小児科の新田医師です。)県内に医師会野球部は4チームありますが、過去11回中7回優勝・4回準優勝しています。県外の水戸医師会とも先日交流戦を行い、試合後は懇親会で親睦を深めました。

「最後に地域の方々、患者さんへ一言をお願いします。」

「過疎の田舎を医療過疎にしない。田舎の

開業医でも最新の医療を提供する。」これが私の信念であり目標です。

当院は江戸時代から続く診療所で、私は11代目になります。外来診療のほか、高齢や脳血管障害後遺症など寝たきりで通院困難な患者さんや悪性疾患の終末期など、在宅での終末医療にも力を入れています。また特別養護老人ホーム「山百合荘」の嘱託医を務めており、入所者に対し週2回(火・金)の回診とほぼ全例で看取りを行っています。更には父の跡を継ぎ大田原警察署の警察医を嘱託しており、旧黒羽・旧湯津上地区の変死体の検視業務に協力しています。日曜祝祭日・深夜を問わずの対応は大変ですが、近隣の開業医仲間の助けも借り、今後も体力の続く限り継続していこうと考えています。

ティープレイク

那須赤十字病院研修医の一言

磯医院で2週間の地域医療研修をさせていただきました。日中の外来診療・検査の他、普段病院では触れる機会のない訪問診療や特別養護老人ホーム

の回診、産業医の職場巡視や健康相談、自治体の3歳児検診等を経験させていただきました。地域の方々や直接関わると同時に、2次



磯医院の皆様と小崎研修医(前列右側)

基本情報

3次医療機関との関わりも非常に密であり、地域医療における連携の重要性を感じた磯先生をはじめ磯医院の皆様、各施設の皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。(那須赤十字病院研修医 小崎真希)

- 院長
磯 政裕(いそ まさひろ)
- 住所
大田原市黒羽向町8
- 電話
0287-54-0020
- 診療科目
内科、外科、小児科、消化器科
- 休診日
日曜日・祝日・土曜日午後
第2・4水曜日、第1・3・5水曜日午後



小児救急看護認定看護師

野澤美枝子



子どもと家族に寄り添う看護

私の役割は、救急外来を受診する子どもの症状を判断し具合の悪い子どもが長時間待つことがないよう調整するトリアージや救命救急処置、育児指導、虐待の早期発見・予防を行うことです。

小児救急医療で「救急外来のコンビニ化」が話題とされた事をご存知でしょうか？この背景には、共働き世帯の増加など保護者のライフスタイルの変化が要因とされています。しかし、何も考えずに夜間、受診しているのではありません。核家族化が進み、相談する人がいなく育児書やインターネットに頼りながら育児を行い、子どもの病状に戸惑い、悩みながら受診の決定をしている保護者がほとんどです。私自身、子どもが突然熱を出し、どうしたらいいかと困っている時「大丈夫」と母の一言で救われた時が何度もありました。保護者が困った時に、安心して育児ができるように、適切なアドバイスを行い、家族の抱える不安を軽減できる存在でありたいと思います。

子どもの心を育む

「小児」は、生まれたばかりの新生児から中学校の思春期まで、成長・発達が最も著しく、

思考や感情を育む大切な時期でもあります。医療を受ける子どもにとって、採血や検査などの処置は恐怖であり、嫌な思いとして記憶に残ります。そのため、嫌な場所と思うのではなく「がんばれる場所」と思えるように発達段階を考慮し処置の説明を行っています。説明を受けた子どもは子どもなりに理解し、「やりたくない」「でもやらなくちゃ」と心で葛藤し処置を受けています。「がんばる力」を引き出し、小さな一歩を踏み出した時を支える関わりを大切にしています。大人にとって、なんてことない場面かも知れません。しかし、子どもにとって困難をひとつひとつ乗り越え、自己肯定感を高める大切な成長過程であるため、丁寧に携わって行きたいと思っています。

「子どもの潜在能力」は素晴らしく、いつも私達に元氣と勇氣を与えてくれます。そんな子ども達と子育てをする保護者の気持ちに寄り添って支援できるように日々研鑽していきます。



4階東小児病棟のスタッフたち

1. もし、家でひとりきりの時に大地震が来たら、あなたならどうしますか？

「え〜と、まず、机の下に逃げて、火を消して、それから…」という感じで、自分の身を守り、自分の周囲からできることをして、防災グッズや当座の食料とお金をもって、避難所に行くというのが一般的でしょうか。

いざ発災となると、どんな人でも頭が真っ白になって、無我夢中でというのがふつうでしょう。そうした時に平時から『アクションカード』を作っておけば安心ではないでしょうか？

2. 『災害時アクションカード』ってな〜に？

災害時アクションカードとは、最近、病院や学校・行政など様々なところで作られている、災害が起きたときにどんな人でも迅速な行動がとれるために作成されている行動マニュアルのことです。これは、地震などの災害が起きたときに、誰がどのような行動をすべきか具体的に書かれたものです。

同じように、個人個人で作成する場合は、家から避難場所・避難所へ移動する間に行うべきことを具体的にイメージすることです。例えば、①持ち出す物のリストは？②避難場所は？行き方は？③家族との連絡手段は？などなど。

栃木県北地域は、東日本大震災で震度6強の地震に見舞われました。その時のことを忘れないためにも平時からの備えが大切です。家族とよく話し合っって『アクションカード』を作成してみたいかがでしょうか。

非常時の持ち出し品・備蓄品 チェックリスト

災害後の救助や
救援物資の到着までに、
最低限必要なものは
準備しておきましょう。



- 非常持ち出し品は、両手が見えるリュックタイプの袋などにまとめておきましょう。
- 避難の妨げにならないように、軽くコンパクトにまとめましょう。
- 自分や家族の状況に応じて必要なものを選びましょう。
- 自分に必要なものの優先順位を決めて準備しましょう。
- 定期的に中身をチェックしましょう。

貴重品

- 現金(小銭を含む) ※公衆電話用に10円玉、100円玉
- 車や家の予備鍵
- 予備の眼鏡、コンタクトレンズなど
- 銀行の口座番号・生命保険契約番号など
- 健康保険証
- 身分証明書(運転免許証、パスポートなど)
- 印鑑
- 母子健康手帳

便利品 など

- 防災ずきんかヘルメット
- 懐中電灯(予備電池を含む)
- 笛やブザー(音を出して居場所を知らせるもの)
- 万能ナイフ
- 使い捨てカイロ
- マスク
- ビニール袋
- アルミ製保温シート
- 毛布
- スリッパ
- 軍手か皮手袋
- マッチライター
- 給水袋
- 雨具(レインコート、長靴など)
- レジャーシート
- 簡易トイレ

食料など

- 非常食
- 飲料水

清潔・健康 のための もの

- 救急セット
- 常備薬・持病薬
- タオル
- トイレ用ペーパー
- 着替え(下着を含む)
- ウェットティッシュ

その他

- 紙おむつ(幼児用・高齢者用など)
- 生理用品
- 粉ミルク・哺乳瓶(赤ちゃんに必要なもの)
- その他自分の生活に欠かせないもの

ご自身の環境に合わせて必要なものを準備してください。

災害拠点病院の責務を果たすため

那須赤十字病院は、災害拠点病院に指定されています。

災害時に傷病者を受け入れられるよう、非常用発電機や地上ヘリポート、ホール内に医療配管を備えています。また、訓練や研修を行い、職員が有事に対応できる体制を整えています。



先日行われた研修会の様子(講師:第三救急集中治療部長 林堅二)

8月 緩和ケア病棟 夏祭り

夏祭りの雰囲気を楽しんだ/8月6日(木)

緩和ケア病棟では、毎年恒例の夏祭りが行われました。

談話室でのウクレレ演奏・フラダンスの催し物の他、屋台に見立てた風船つり、射的、かき氷、栄養課によるおやつが振る舞われ、病棟が賑わいました。



ウクレレ演奏披露

与一まつり

113人が流し踊りに参加/8月7日(金)

地元大田原市で開催される与一まつりの流し踊りに、医師、看護師をはじめ、総勢113人が参加しました。

練習の甲斐あって、見事優秀賞をいただきました。



与一まつり

9月 クラリネットとハープによるコンサート

名曲コンサート/9月3日(木)

「那須塩原音楽のまちを作る会」代表のクラリネット奏者高橋貞春さんと、ハープ奏者 高久美穂さんによる演奏会がマイタウンホールで開催されました。患者さんと職員、延約150人がそのハーモニーに癒されました。



左:高橋貞春さん、右:高久美穂さん

救急フェア

ヨークベニマル大田原店駐車場にて/9月6日(日)

大田原消防と合同で救急フェアが行われました。当院からは、11名が参加。健康相談、血圧測定、風船配りを行いました。車両の展示もあり、小さなお子さんを連れたお母さんからお年寄りまで、多くの方が訪れました。



当院の看護師による血圧測定中。

那須赤十字病院 託児所「ポケット」

祖父母の会/9月19日(土)

院内託児所で、祖父母を招待したお祭りが開催され、約33名の祖父母が集まりました。子供達はお神輿を担いで登場した後、祖父母と共に、もぐらたたきや輪投げ、金魚に見立てた金魚すくいを楽しみました。

保育士さんが手がける手作りの法被や小道具の完成度はお見事でした。手作りのチョコバナナなどもおいしくいただきました。



お神輿わっしょい!!

那須赤十字病院 ボランティア会
押し花体験(コスモスの会)



押し花を教える 小暮祐子さん、磯和子さん(左から)



作品を手に持つ 古森恵美子さん、小暮祐子さん(左から)

コスモスの会は、毎月第二・第四水曜日の10時から15時まで当院2階もっとクロスルームにて、押し花体験を開催しています。コスモスの会のメンバーは3名で、3名とも、「ふしぎな花倶楽部」の「押し花インストラクター」の資格を持っています。押し花体験では、外来患者さんやそのご家族の待ち時間の間の気分転換や癒やしになればと、しおり作りや押し花はがき作りを行っています。

Q 押し花を始めたきっかけは何ですか。

A 押花の作品展を見て、作品のすばらしさに感動し、押し花を始めました。

Q いつ、どんなきっかけで当院のボランティアを始めましたか。

A 旧大田原赤十字病院のときに、押し花の作品を額に入れて展示したところ、患者さんから好評でした。そのため、患者さんからの要望で、平成17年から押し花体験を始めました。

Q 当院以外でどのような活動をしていますか。

A 「道の駅 那須与一の郷」で、コスモスの会で作った作品を販売しています。

Q 押し花作りで心掛けていることは何ですか。

A 色がきれいに押せるように、天気の良い時にお花を取り、素早く押すことです。また、花の色や形を観察して、きれいな作品になるように心掛けています。

Q 押し花の魅力はどんなところですか。

A 花が咲いていたときに近い状態で残すことができ、未永く癒やされることです。

Q 押し花に興味のある方に一言お願いいたします。

A 野原や自分の家で咲いた花をいつまでも飾ることができますし、5分～10分でしおりや押し花はがき、その他いろいろな作品が簡単に作れます。お子さんから大人の方まで楽しめますので、心よりお待ちしております。

新任医師紹介

「わたしたちが皆さんの健康をサポートします！」

10月から那須赤十字病院で働く先生を紹介いたします。



小児科
安藤裕輔

献血に行こう!

「血液を確実にお届けするために」

～あなたの善意が患者さんの尊い生命を救います～

日時：平成27年12月28日(月)10:00～16:00(12時前後から1時間程度休憩をとらせていただきます)

場所：那須赤十字病院 時間外入口付近(献血バス)

問合せ：那須赤十字病院 社会課 ☎0287-23-1122(代)

400ml献血のご協力をお願いします。

がんのつどい

平成 27 年 11 月 7 日(土) 10:00～11:00
那須赤十字病院 会議室 1・2

お薬のこと アドバイザー：薬剤師 内藤 裕之

平成 27 年 12 月 5 日(土) 10:00～11:00
那須赤十字病院 会議室 1・2

お金のこと アドバイザー：社会福祉士 野中 美希
※申込不要。直接お越しください。

那須赤十字病院緩和ケア講演会

平成 27 年 11 月 27 日(金) 18:00～20:00

那須赤十字病院 2 階 マイタウンホール

緩和医療における臨床倫理の考え方

～現場の倫理的ジレンマを「個人の悩み」にしないために～

講師：宮崎大学医学部 板井 孝彦 教授

対象：医療従事者

申込先・問合せ：担当(入田) 0287-23-1122(代)

第15回メディカル講座

平成 27 年 11 月 7 日(土)
11:30～(開場 11:00)

那須赤十字病院 2 階マイタウンホール

「がんにならない食事、

がんになってからの食事」

那須赤十字病院 血液内科部長 小林 洋行

「緩和ケアについて」

那須赤十字病院 緩和ケア認定看護師
立川奈津子

申込・問合せ：
那須赤十字病院 人事課(0287-23-9946)

プレゼント



本誌へのご意見・ご感想をお聞かせください!

抽選で3名様に「CroKuma救護服」「CroKumaナース」「赤十字マグカップ」をプレゼントいたします。

以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールにてご応募ください。

●応募先

郵送/ 〒324-8686 大田原市中田原1081-4

那須赤十字病院 総務課 プラタなす第11号 プレゼント係
FAX/ 0287-23-3004

宛先「総務課 プラタなす第11号 プレゼント係」

メール/nrchp@nasu.jrc.or.jp

件名「プラタなす第11号 プレゼント係」

●応募締切り 2015年12月25日(金)

※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

編集後記

木の葉が色づき始めました。
行楽シーズン到来です。美味しいものを食べて元気になりましょう。

総務課 長山

今回の表紙

平成 27 年台風 18 号による大雨災害の被災地で
当院の職員も活動しました。

栃木県栃木市に、医師 1 名、看護師 2 名、主事 1
名を派遣しました(9/11)。

茨城県常総市には、水海道小学校の救護所での診
療のため救護班を 1 班(9/16～19)、日赤医療コー
ディネーターとして医師 1 名とスタッフ主事 1 名
(9/16～20)、疲労困憊している常総市役所職員
に対してのこころのケアのため看護師 1 名(10/8
～10)を派遣しました。

那須赤十字病院

基本理念

マイタウン・マイホスピタル
～地域に根ざし、ともに歩み、心ふれあう病院に～

基本方針

1. 赤十字基本原則に則り、地域のための医療を提供します。
2. 患者さまの立場を尊重し、患者さまに信頼される病院をつくりまします。
3. 日々の研鑽を惜みず、医療の質の向上に努めます。
4. 保健・医療・福祉施設との連携を密にし、地域医療の発展につくします。

プラタなす 那須赤十字病院広報誌プラタなす No.11

発行日 2015年10月

発行者 那須赤十字病院 〒324-8686 大田原市中田原1081番地4

TEL 0287-23-1122 FAX 0287-23-3004

URL <http://www.nasu.jrc.or.jp> 印刷 株式会社 松井ビ・テ・オ・印刷